

平成23年度 科学・技術関係予算概算要求 個別施策ヒアリング
24148 理科教育等設備整備費補助（文部科学省）

- 1 日時：平成22年9月24日 13:20～13:45
- 2 場所：中央合同庁舎4号館 2階 共用第3特別会議室
- 3 聴取者：総合科学技術会議有識者議員 相澤議員、奥村議員、青木議員
外部専門家 4名（うち若手 2名）
内閣府 有松参事官
- 4 説明者：初等中等教育局 平林教育課程課長

5 施策概要

学校教育における理科教育の振興を図るために、理科教育振興法に基づき、公・私立の小・中・高等学校等の設置者に対して、理科教育設備の整備に要する費用の一部を補助する。

6 質疑応答模様

（相澤議員）最後に言われたことがまさしく毎年の問題点。どういう現状把握なのかということと、どの程度整備が進んでいるかということ。それに加えて、今度、新指導要領に対応するということが加わってきたので、一体どういう状況が今あるのかということを確認にして欲しい。それに対してこれくらい整備が進んでいるということ、定量的に示して欲しい。

（文部科学省）今まで整備率、現有率という数字を出して予算要求もしてきたが、これが実勢をはあくしていない。そこで基準の改善を行っている。基本的に補助金の整備の考え方は、地方の裁量を重視していくということを前提にして、その中である程度の目安を示す。現在の検討、例えば、新指導要領を実施する上で新しく加わったもの、例えば、人体の仕組み、手回し発電機を使って実験をするなど、必要な個数なりも目安を示して、足りるか足りないのかを改めて調査していく。もちろん100パーセントが望ましいのだが、現状把握していく。簡単には調査している。例えば、人体模型で言うと、各校に1体は必要だろうと調べてみると、だいたい100%確保できている、現有個数で調べると。ただよくよく調べると、35%の学校には基準を満たしていない、つまり置いていないということがわかった。こういうものは整備が必要というメッセージとして、基準を改正して示すことで新指導要領の実施に当たって、円滑に実施できるように、整備を促すことを考えている。

（相澤議員）結局そういう曖昧な答えしか得られない。そうすると、来年度要求のこの額によって、どのくらい前進、改善が進むのかというのはどうか。

（文部科学省）品目も色々あるので、どこまで進むのか判断しかねる部分がある。基準を改正する中で試算のようなものやっいていこうと思っている。現在、具体的な数字で何%を

示すことは難しい。

(奥村議員) 近い質問。昭和 29 年から延々とやっている。過去の長期にわたる実績、累積の整備率でも良いし、学校の先生方の反応でも良いので、過去にどういう累積的な実績が積み上がってきて、さらに将来、10 年先、どこまで整備率を上げたいのか。そういう計画がないのか。今の説明では、無いような印象だが。それでないと予算額の適正、非常に判断が難しい。まず、あるのか、ないのか教えてください。

(文部科学省) 基準を改正して、それに合わせた部分の現有率を今調べている。簡単には調べたものがある。

(文部科学省) 目標値は特段定めていない。毎年補助金をやっているのに、いつになったら率があがっているのかが指摘されるが、現実問題として、古いものを新しいものに更新していくという手続き、正確には把握していないが、聞くところによると半分から半分強は、新しいものを買うよりは、更新。例えば古い顕微鏡を新しいものにする。個数だけ増えていくというのは難しいと考えている。

(奥村議員) そんな話は当たり前。機能としてどれくらい改善しているか。スキームができていないままに毎年予算執行されている。改めて確認するような形になるが、そういう理解でよいか。

(文部科学省) 今までの考え方はその通り。今の基準改正は、正にそのような問題意識から。具体的に示して。いくつかの段階に応じて。品目を分けて、それぞれ必要個数など目安を示して行って、それぞれの整備をやっていく方向に変えていこうと考えている。

(相澤議員) いつもこのやりとり。どこに原因があるのか。文科省が直接すべての学校に交付金、補助なので交付金といわないかもしれないが、直接配分のところにタッチしていないのか。地方自治体、教育委員会なりに渡してしまうルートなのか。どうして末端の数字が出てこないのか。

(文部科学省) 末端の数字というのは、学校における整備の状況という意味か。

(相澤議員) どの学校にいくら交付されて、それが何のために使われるのかというのは、申請方式であれば、書面上でも明らかだと思うが。改めて調査するのではなく、申請のあったものを審査して交付しているならば、すべてデータはあるのではと思うのだが。

(文部科学省) 今の理科教育設備の状況では、補助金の設備と市町村が単独に整備したものもあわせて、理科の台帳を作成している。すべて補助金の理科教育設備ではない。

(相澤議員) では、少なくとも、文科省が支援した部分は把握できているのか。

(文部科学省) 補助金が今まで累積でいくら入ったかというのは。

(相澤議員) 単年度ずつ蓄積すれば累積は出るのだから。そういうような具体的な数字を掴めない状況なのかを聞いている。

(文部科学省) 例えば、県立学校では。

(相澤議員) イエスかノーで教えてください。

(文部科学省) トータルで言えばノー。額の確定作業によって、その年に何を買ったか、例

- えば、県立高校の場合把握できるが、それ以外のところで、それを廃棄したか、変更したかを把握するすべを持っていない。逆に細かく提出させると、却って学校の負担にもなる。
- (外部専門家) 相澤先生がお尋ねになっているのは、こういう予算を与えるときに、何か最初から計画を立てさせているのか、単なる予算のばらまきかということ。どちらかによって、大分考え方が変わると思うが。
- (文部科学省) 予め各自治体、設置者から、少なくともこれくらいの整備のためにこれくらい必要との申請は出させているが、細かい品目までは出させていない。
- (奥村議員) 毎年10億円を使っているのに、国民、Tax Payerに、10億円の使い途がどうなっているか分からないと言えるのか。今の答えはそういうこと。把握していないということは。昭和29年からであれば、びっくりする。
- (文部科学省) 今言ったのは、県内で単独で整備されているモノもあれば、補助金の分もあるということであるので、もちろん償却もある。全ての台帳を作れば手間暇かかること。調査すれば分かるが、そこまでのデータの把握をしていないということ。執行した部分についての実施報告書はもらっている。
- (相澤議員) 少なくとも、予算執行がどう行われたかぐらいは整理して示すべきではないか。それすらも曖昧になっていて、明らかにできていない。明らかにできるものを資料として提示してください。
- (外部専門家) 今の話を伺って驚いた。理科教育がこれほど日本国にとって重要だと騒がれているのに、極めてマンネリ的な行政が行われていて、御破算する必要があるとも思った。
- (文部科学省) 整備基準を対外的に説明できるように、理科整備の在り方を中で検討している。学校側も補助金の申請が大変ということもある。軽減の方向の見直しを今作業しているところ。
- (外部専門家) 実態も分からず、何を買いなさいと言うことも分からないのではないかと。
- (文部科学省) 補助金の仕組みとして、基本的に学校の裁量に任せている。どういうものが必要か。必ずしも特定のものに限らない。教材などもある。最終的には例示の品目という形で示している。例示で示すにしても、ある程度学習の仕方によって、例えば、顕微鏡にしても、10人で1台という訳にもいかないで2人に1つなど、きめ細かく判断し、新指導要領を実施する上でどうしても必要な、優先的に整備すべきものを示して整備してもらおう。示した後に、どれだけ整備されたかを毎年は大変かもしれないが、ある程度のタイムスパンでは調べて、これだけの整備率があるといことを示すことができるように今後変えていこうかと考えている。
- (外部議員) 細かい全部を挙げられても困る。学校の先生も、文科省も。せめて消費するのは一つの候補として、10年持つもの、そういった備品に関しては、何%といった、レポートはもらって把握したほうが説明しやすいのではないかと。
- (文部科学省) 仰る通り。調査の仕方のところだが、今までは学校にどれだけの理科設備を持っているかの全額ベースの把握しかしていなかった。ここは改善しようとしている。具

体的には、1つはサンプル調査を行う。関係団体、今の小学校、中学校のサンプル、0.5～1%学校に対して、学習指導要領で指導するに当たって、どれくらい揃っているか調査をかけている。速報としてお話をしたのが先ほど申し上げたこと。これが一つ。もう一つは、ある程度文科省として、顕微鏡や上皿天秤など絶対的に必要なものについては、毎年学校負担になるので、ある程度のスパンで、何個揃っているか調査していく。

(相澤議員)先ほど言った資料を提出すること。これは完全に公開の場で行われていることを、ゆめゆめ忘れないようにしていただきたい。

(外部専門家)1つだけ。集中してどこかに分配されるとか、均等に分配されるとか、そういった工夫はあるのか。申請があったらそれを審査対象とするだけか。

(文部科学省)基本的には、設置者、例えば、市町村単位、高校だったら県、その単位で申請が出てくるので、その申請にあわせて、状況を見ながら分配をする。学校への配分は設置者の判断。

以上